

日本のふるさと。自給自足的循環社会

広報 京丹波 4

NO.138 2017.4.17 発行 TOWN KYOTAMBA



京丹波町が
これからの10年に向かって
スタートしたよ。

これからの
”日本のふるさと”を
めざして。

新しい物語の、

始まり、
始まり。

新芽のささやき

- 02 平成29年度予算の概要
- 06 京丹波町役場の人事異動
- 09 **NEW** 五輪への道～スポーツで世界の人と文化がつながる京丹波
- 10 受賞報告
- 12 民生委員制度創設100周年
- 14 「京丹波ぬくもりのイス」絵本完成ほか
- 16 まちの話題
- 18 いきいき健康術
- 19 **NEW** お茶の間

地域医療体制の確立推進と医師確保対策

南丹病院組合負担金	1,375万4千円
病院事業運営補助金	3億2,134万3千円
医師住宅建築事業	1,467万1千円
今後の常勤医師などを確保するための住宅(官舎)整備工事の実施に向けた設計業務などを行います。	

子育て支援の推進

すこやか子育て祝金事業	750万円
チャイルドシート購入助成事業	45万円
子育て支援医療費助成事業	2,854万5千円
出生から中学校卒業までの幼児・児童および高校生などの医療費を助成します。	

高齢者等の安心安全対策

在宅高齢者等生活支援事業	2,594万4千円
高齢になっても住み慣れた地域で自立した生活を続けられるよう、外出支援サービスや食の自立支援サービスなどを実施します。	
見守りネットワーク事業	390万円
高齢者、障がい者、児童など見守りを必要とする人を地域全体で見守るネットワークを構築し、安心して暮らせる地域づくりを図ります。	

健康増進の推進

母子保健事業	1,267万6千円
子どもの健やかな成長を支援するため、妊婦健診の公費助成や乳幼児健診の実施、ベビーマッサージ教室やベビー体操教室、マタニティ・産後ヨガ教室の開催、不妊治療助成などを行います。	
健康増進事業	718万2千円
健康教育、健康相談、訪問指導、健康手帳の交付、機能回復訓練など健康の増進を図るさまざまな事業を実施します。	
〔充実〕各種健康診査事業	8,106万円
特定健診や基本健診、各種がん検診の実施、健(検)診結果を活用した適切な指導などを行います。多くの方が受診し、疾病の予防や早期発見につなげるため、町集団健(検)診は、すべて自己負担なしとしています。平成29年度からは肺がん検診のデジタル撮影への移行や、乳がん検診(マンモグラフィ)の個別検診の導入により、健(検)診をさらに充実します。	

消防防災体制・防犯対策の強化

京都中部広域消防組合負担金	2億7,910万6千円
消防団活動運営事業	7,450万円
防火水槽設置事業	1,570万円
防災事業	1,435万5千円
〔充実〕防災ハザードマップ作成	864万円

非常食・毛布などの災害備蓄物資、タイベックスーツ、個人線量計などの原子力防災対策備品を整備します。あわせて、平成20年度以来となる防災ハザードマップの作成を行います。	
自主防災組織育成事業	100万円
各区の自主防災組織の結成・育成と地域防災の基盤強化を推進するため、資機材・防災備蓄物資整備などの取り組みに対し、10万円を上限とした補助金を交付します。	
移動系防災行政無線維持管理事業	913万9千円
〔充実〕街灯(防犯灯)設置補助金	300万円
自治会などが実施する街灯(防犯灯)の設置・改修に要する経費に対し、補助金を交付します。平成29年度から、LEDへの改修を促進するために一団体あたりの補助金の上限額を5万円から10万円に引き上げます。	

交通対策の強化

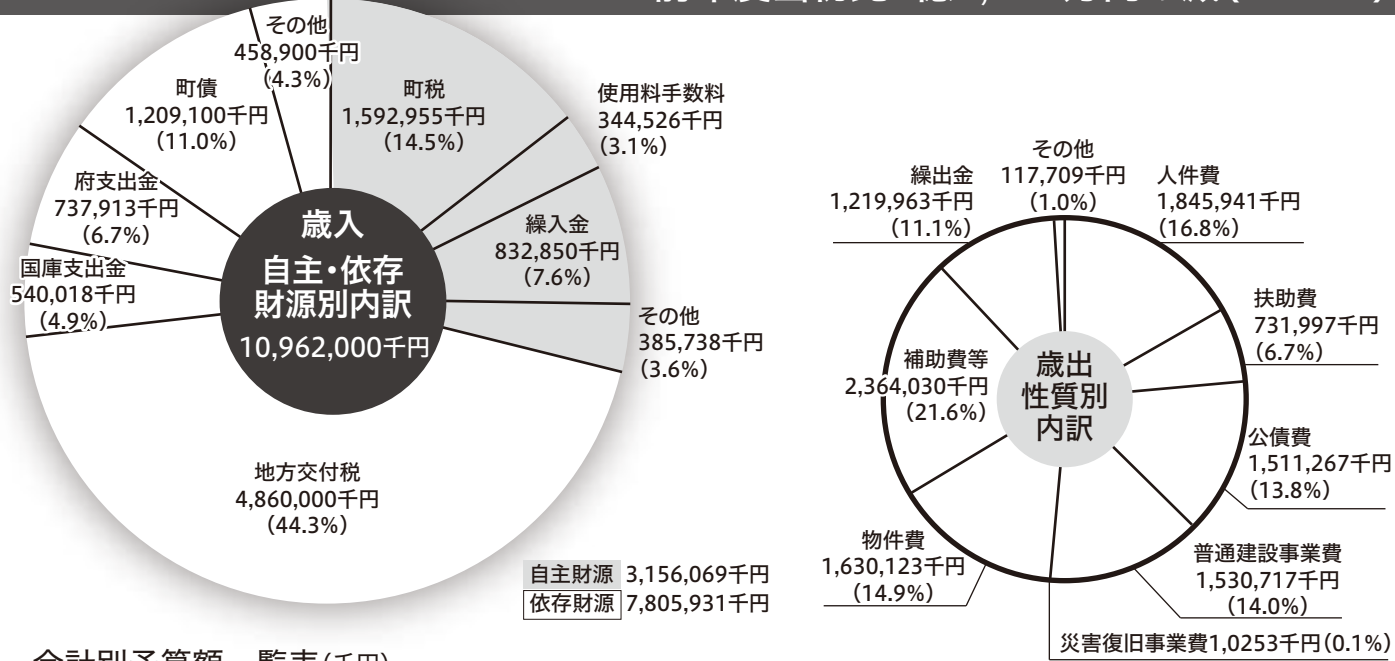
町営バス運行事業特別会計繰出金	7,469万9千円
〔新規〕運転免許証自主返納奨励金	50万円
高齢者ドライバーによる交通事故防止と公共交通の利用促進を図るため、運転免許証を自主返納した高齢者などへ1万円分の路線バス利用券を交付します。	

住宅環境・居住環境の向上対策

木造住宅耐震診断・改修事業	565万円
〔新規〕耐震シェルター設置補助金	300万円
木造住宅の耐震性を高めるため、耐震診断士の派遣や耐震改修に対し補助金を交付します。平成29年度からは、新たに耐震シェルターの設置に対し、一戸あたり30万円を上限として補助金を交付します。	
住宅改修補助金交付事業	800万円
住宅の耐久性の向上や環境に配慮した改修などに対して補助金を交付し、住宅改修を促進します。(補助上限額:10万円/戸)	

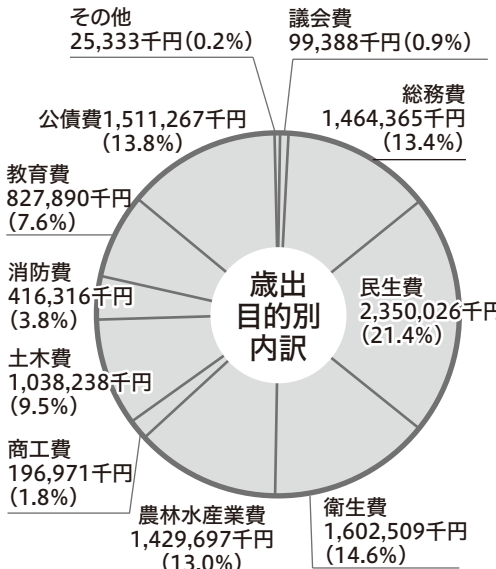
一般会計歳入歳出予算額 109億6,200万円

前年度当初比5億5,870万円の減(−4.8%)



会計別予算額一覧表(千円)

会計名	29年度	28年度	増減額
一般会計	10,962,000	11,520,700	△558,700
特別会計	5,826,190	7,812,878	△1,986,688
国民健康保険事業特別会計	2,252,000	2,320,600	△68,600
後期高齢者医療特別会計	223,328	217,779	5,549
介護保険事業特別会計(事業勘定)	2,156,440	2,206,807	△50,367
介護保険事業特別会計(サービス事業勘定)	6,595	6,552	43
介護保険事業特別会計(老人保健施設サービス勘定)	155,869	172,866	△16,997
水道事業特別会計	0	1,831,200	△1,831,200
下水道事業特別会計	927,500	952,700	△25,200
土地取得特別会計	60	168	△108
育英資金給付事業特別会計	5,296	5,296	0
町営バス運行事業特別会計	99,102	98,910	192
企業会計	3,352,231	1,509,725	1,842,506
国保京丹波町病院事業会計	1,139,996	1,509,725	△369,729
水道事業会計	2,212,235	0	2,212,235
合計	20,140,421	20,843,303	△702,882



平成29年度当初予算が3月の議会定例会で可決、成立しました。本年度は「安心・活力・愛のあるまちづくり」を編成方針とし、特に「防災減災」、「バイオマス産業都市構想の推進」、「まちの将来を担う人材を育成するための子育て施策など」の三つを最重要課題として重点的に取り組みます。

歳入の内、町税は1・5割増の15億9295万5千円を計上。最も大きな割合を占める地方交付税は、普通交付税合併特例措置の段階的縮減が平成28年度から開始され、3・0割減の48億6000万円を計上しました。町債は20・9割減の12億910万円、収支不足を補う財政調整基金からの繰入は27・5割増の6億9279万9千円としています。

歳出の内、人件費・扶助費・公債費からなる義務的経費は3・2割増の4億8920万5千円を計上しています。投資的経費は、29・1割減の15億4097万円を計上。大幅な減少ですが、次年度以後に予定している新庁舎や認定こども園の整備に向け、準備作業を着実に進めます。

安・心・の・あ・る・ま・ち・づ・く・り

平成29年度予算の概要

平成29年度予算の概要

幼児教育・保育の充実

幼稚園の管理・教育振興 6,503万7千円

平成27年度に教室の空調設備整備と遊戯室の耐震改修を実施しました。幼稚園利用料は平成27年度4月分から第2子は半額、第3子以降は無償化しています。

保育所の管理・保育環境の充実 3億4,951万1千円

保育所利用料は平成27年度4月分から、18歳未満の児童を3人以上養育する世帯の第3子以降は無償化しています。

新規 認定こども園開設準備事業 2,389万7千円

就学前の子どもにより良い環境のもとで幼児教育・保育を提供できるように「幼保連携型認定こども園」の設立に向けて具体的な検討を実施します。

学校教育の充実

小中学校の管理・教育振興 3億1,320万円

・ **新規** 学校教育情報化機器整備事業 3,675万2千円

・ **新規** 蒲生野中学校トイレ洋式化改修工事 5,347万1千円

・ **新規** 小中学校通学バス無償化 238万6千円
(歳入の減少見込額)

・学校給食の実施 1億3,740万6千円

平成25年度からすべての小・中学校が完全給食となっています。今後も児童・生徒の健康づくりと食育のため、学校給食の充実を図ります。

平成27・28年度に教室の空調設備整備工事と体育館など非構造部材の耐震改修を実施しました。

パソコン教室などの情報教育機器の更新、蒲生野中学校のトイレ洋式化改修などを実施し、安全・快適な教育環境づくりを推進。小中学校通学バス利用料を無償化し、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

拡充 地域学校協働活動推進事業 200万6千円

各小学校にコーディネーターを設置し、地域と学校が協働して未来を担う子どもたちの成長を支援する活動を実施します。

地球温暖化対策の推進

拡充 新エネルギー導入促進事業 640万5千円

住宅用太陽光発電システム設置に対し補助金を交付します。平成28年9月に住宅用太陽光発電システムと蓄電設備の同時設置に対する補助金制度を拡充しました。

須知高校の活性化推進

新規 須知高校教育振興対策交付金 102万9千円

京都府立須知高等学校の教育の充実を図り、町の未来を担う人材を育成することを目的に生徒の資格取得などの学びを支援します。

町営バス利用促進補助金 180万円

須知高校通学生徒への町営バス定期券の半額助成を行い、町営バスの利用促進と町内唯一の高校の活性化につなげます。

中学校・須知高校連携研究事業 23万3千円

町内3中学校と須知高校が連携して学習する場を設け、中学・高校の交流を深め、教育の充実を図ります。

ホストタウン構想の推進

新規 ホストタウン構想推進事業 230万7千円

ニュージーランドとのホッケー交流や文化交流の推進、ホッケー日本代表の合宿誘致などを実施し、東京五輪ニュージーランドホッケー代表チームの事前合宿誘致を進めます。

中学生国際交流事業 381万2千円

町立中学校とニュージーランド・ダニーデン市のタイエリカレッジ校との相互派遣事業を継続実施します。

新規 京都トレセンとの総合連携によるアスリート育成等事業 69万8千円

京都トレーニングセンターと連携し、ジュニアアスリート育成トレーニングと一般向け健康増進トレーニングのモニター事業を実施します。

活力ある地域づくりの推進

協働のまちづくり事業 311万6千円

地域支援担当職員による支援や住民自治組織によるまちづくり交付金の交付などを実施します。

新展開 駅を守る会事業 544万5千円

和知駅の活性化にかかる経費を計上。平成29年度は将来的な駅前広場の整備を検討するため、駅前の測量などを実施します。

移住・定住対策 905万8千円

・ **充実** 地域支援事業(地域の受入体制の支援) 120万3千円

・空き家情報バンク事業 10万5千円

・ **充実** 明日のむら人移住促進事業 775万円

南丹・亀岡・京丹波の2市1町と京都府などが平成28年11月に設立した「京都丹波移住・定住促進協議会」を通じた取組みや、空家バンク制度などを活用し、本町の魅力の発信や受け入れ体制の整備を進め、移住・定住人口の拡大を図ります。

有害鳥獣対策

サル被害対策を強化するとともに鳥獣撃退機の実証研究を実施します。

有害鳥獣対策事業 9,057万9千円

・有害鳥獣捕獲報償金 5,100万円

・シカ捕獲強化事業奨励金 552万5千円

・有害鳥獣被害防止施設設置事業補助金 1,300万円

・ **充実** サル捕獲委託料・サル捕獲檻導入ほか 323万8千円

・ **新規** 鳥獣撃退機の実証 178万2千円
ほか

林業振興の推進

公有林整備事業 3,547万2千円

町有林・町行造林の伐採・植林と併せて、原木などの出荷・売払いを実施し、森林施業モデルの構築と森林資源の循環利用を推進します。

森林管理道開設事業 6,432万7千円

平成24年度に着手した森林管理道塩谷長谷線開設工事の最終年度にあたり、供用開始に向けて最終工区の整備に着手します。

新規 豊かな森を育てる交付金事業 1,180万円

京都府豊かな森を育てる府民税条例に基づく市町村交付金の交付を受け、森林の多面的機能を維持・増進するための事業を実施します。

新規 森林エクスカーション事業 50万4千円

森林の多面的機能について周知するためツアーガイドと森林散策する「森林エクスカーション事業」を実施します。

バイオマス活用の推進

新展開 地域資源活用推進事業 1,506万7千円

平成28年度に整備した地域熱供給施設のさらなる事業展開のための調査、メタン発酵による食と農とエネルギーの循環利用の事業化に向けた可能性調査を実施します。

新規 地域熱供給施設管理事業 1,522万7千円

木質バイオマスボイラなど地域熱供給施設の維持管理に要する経費を計上します。

森林(もり)の文化創造事業 442万5千円

新生児への「京丹波町ぬく森のイス」贈呈事業、北海道下川町との子ども交流事業などを実施します。

農業基盤の整備

集落機能の維持や農業生産力の向上を図るため、農地の保全や農業施設整備を推進します。

稲荷池(坂原地内)改修工事 7,469万3千円

新規 奥ノ谷池(升谷地内)調査 2,011万9千円
ほか

農業振興の推進

農業機械や施設を整備し、技術指導を行い、農業後継者や営農組織を育成して担い手を確保します。

農業振興事業 1,517万8千円

水田農業構造改革対策助成事業 2,895万5千円

新規 黒大豆・小豆生産加速化事業 1,047万3千円

認定農業者確保・育成事業 1,065万円

新規 京野菜ランド拡大・強化事業 154万1千円
ほか

鳥インフルエンザ跡地活用の推進

新展開 鳥インフルエンザ発生農場跡地活用事業 4,177万7千円

映画ロケの拠点となるサポートセンターの整備工事、森林公園整備工事に向けた設計業務などを実施します。

新規 京丹波町ロケ地誘致事業 2,253万2千円

本年度初めに設立予定の(仮)京丹波ロケーションオフィスを中心に、町内へのロケ誘致・受入を推進します。

道路橋りょう整備の推進

道路橋梁維持管理事業 5,780万9千円

道路新設改良事業 5億4,427万円

【主な整備路線】

・町道曾根宮ノ浦戸麦線(曾根地内) 6,690万2千円

・町道蒲生野中央線(蒲生地内) 2,000万円

・町道藤ノ瀬大郷線(下山地内) 3,230万円

・橋梁修繕(大原橋他) 5,550万円

・白土跨道橋(下山地内) 7,000万円

・町道橋爪区内線(橋爪地内) 6,940万円
ほか

商工・観光振興の推進

京丹波まるごと交流型観光推進事業 1,349万8千円

7回目となる食の祭典の開催、町内4つの道の駅の機能充実、新たな観光資源の掘り起こしなど総合的に観光施策を推進します。

新規 和知力醸成によるにぎわいとふるさと創生事業 100万円

和知地区をモデルエリアに地域の観光資源を活用した体験型周遊観光ツアーの事業化を図ります。

新庁舎の整備

新庁舎整備事業 2億4,500万円

新庁舎の平成32年度末までの建設に向け、設計と建設予定地の既存施設(ビジョンダンマーク)の撤去を実施します。

人事異動

*正規職員のみ *敬称略
*カッコ書きの氏名は兼務

平成29年4月1日からの職員
の配置を報告します。

新庁舎建設事業の推進体制の強化、認定こども園の開設に向けた体制整備、人事交流の継続による人材育成などに重点を置いています。また、水道事業の公営企業への移行により課名を変更しました。

参事

伴田邦雄（総務福祉）
山田洋之（事業）

議会事務局

町議会の事務を担当
【局長】堂本光浩【局長補佐】石田美穂【係長・主任】（石田美穂）【主査・主事】山口知哉

総務課

消防、防災、防犯、法規、選挙（選挙管理委員会）、人事、秘書、任免、給与、研修、福利厚生、職員団体、公平委員会、予算・決算（一般会計）、起債、町有財産の管理、新庁舎建設など

【課長】中尾達也【課長補佐】原澤洋、北村和正【係長・主任】小林篤史、山内善史、松下由美、上原康宏、正田智久、中村昭夫【主査・主事】川勝千裕、岡本みずき、洲上菜央、隅田和樹、大秦 学、徳島 詢（新規採用）、羽田詩織（新規採用）

監理課

入札資格、審査・決定、指名委員会、入札執行、契約、工事などの検査・指導、その他公共事業の適正執行など
【課長】野村雅浩【係長・主任】（野村雅浩）、竹村 洋【主査・主事】井上慎也

企画政策課

企画、交流事業、広報広聴、統計、地域支援、住民自治、町政要望、町営バス、交通安全、情報化、情報化施策の企画推進、情報センターの管理

みずほ保育所

乳幼児保育、子育て支援センター
【所長】下伊豆かおり【所長補佐】北村恵里子【係長・主任】細見ルミ【保育士】久保元恵子、蒲生沙奈美、大秦優子、加藤亜希子、中西靖浩、鳥羽敬子

わちエンジェル

乳幼児保育、子育て支援センター
【所長】東 直美【所長補佐】下村秀美【係長・主任】（下村秀美）【保育士】野口加代里、松村春成、梅原彰子、三嶋夏波、井上暁美（新規採用）

医療政策課

病院・診療所・介護療養型老人保健施設、総合医療政策など
【課長】藤田正則【課長補佐】中川豊【係長・主任】村山英紀

京丹波町病院

【院長】垣田秀治【副院長・外科部長】（庄林 智）【事務長】（藤田正則）【看護師長】平田千春（総括）、林真紀、小川和代【事務長補佐】（中川豊）【理学療法士】森本勝則【放射線

運営など

【課長】木南哲也【主幹】松井健吾
【課長補佐】小谷誠之、田中晋雄、堀友輔、保田利和【係長・主任】（小谷誠之）、（田中晋雄）、野々口慶司、田畑昭彦、西村公貴【主査・主事】片山晴子、西村紗矢香、徳島一輝、太田周人、野口雄祐、村山裕信

税務課

住民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税など

【課長】松山征義【課長補佐】堀内浩二、中井伸幸【係長・主任】大西孝治、長谷川 真【主査・主事】福本み子、千田 司

▼地方税機構派遣

【係長・主任】島 文子、石田武史
【主査・主事】野口尊正

住民課

戸籍、住民基本台帳、印鑑登録、公的個人認証、災害救助、行旅死病人、児童手当、国民健康保険、後期高齢者医療、福祉医療、国民年金、環境衛生と保全、船井郡衛生管理組合、埋火葬墓地、人権一般、住民相談、消費生活など

【課長】長澤 誠【課長補佐】山田和志【係長・主任】吉田敦美、山内明宏

山本桂市、谷口玲子【主査・主事】堀孝子、豊嶋裕美、正田志帆、松浦由香、瀬戸亜弓、上田さくら（新規採用）

▼後期高齢者医療広域連合派遣

【主査・主事】金江美和

▼船井郡衛生管理組合派遣

【主査・主事】田中博典

保健福祉課

健診、伝染病予防、保健指導、救護援護、保護、高齢者福祉、障害者福祉、母子・児童福祉、介護保険給付、介護認定、介護保険料、高齢者の総合相談・支援など

【課長】大西義弘【課長補佐】山島強、井上祐子、上原美智子、永海貴子、岡本明美、豊嶋浩史【係長・主任】藤田むつみ、堀 道枝、芦谷真由美、（岡本明美）、島田恵子【主査・主事】西村明美、片山 哲、坂本美佳子、高見謙佑、山口紗也香、門大輔【栄養士】上林小百合【保健師】西村美智子、保田智子、中川早苗、保ヶ部直子、蓮見純子、中 淑子、三田杏奈

門員】安藝俊郎

和知歯科診療所

【所長】舟木 健【事務長】（二谷寛）【事務長補佐】山口秀子【歯科医師】三浦博人【歯科衛生士】片山昭子

農林振興課

農業・林業・畜産業の振興、農業委員会、農業用施設整備、林道整備、治山事業、農林災害復旧など

【課長】栗林英治【課長補佐】片山健、井上晴之【係長・主任】小山潤、宇野浩史、吉田 聡、荻野雅則【主査・主事】伊東拓馬、坂本憲吾、辻 裕

▼林野庁派遣【主査・主事】下村邦喜
▼農業委員会事務局

【事務局長】増谷隆男【主任】山内智美

商工観光課

商工業、観光、労働行政、企業の立地推進、町有地の利活用など
【課長】山森英二【課長補佐】原澤恒【係長・主任】（原澤 恒）山下稔【主査・主事】木上祐輔
▼経済産業省派遣
【主査・主事】瀬紳司

土木建築課

土木管理、建設、用地買収、国土利用計画、入札、道路・橋りょう、土木災害復旧、建築、町営住宅、都市計画、ダムに関することなど

【課長】山内和浩【課長補佐】保田志信、藤井雅文、八木敏和【係長・主任】山内敏史、秋山卓弘、小松聖人【主査・主事】井上和宏、岡本 淳、奥田康平、奥野武志

上下水道課

上水道、簡易水道、公共下水道、集落排水、合併処理浄化槽など

【課長】十倉隆英【課長補佐】竹内健、岩崎勝也【係長・主任】山下徹、高屋敦彦、西山直人、野間 隆、(岩崎勝也)【主査・主事】吉田和晃、西山宏明、片山加奈、小崎亮太、林龍之介(新規採用)

会計室

出納、指定金融機関、資金、物品会計など

【会計管理者】久木寿一【室長】中野竜二【係長・主任】上西貴幸【主査・主事】大森しおり

瑞穂支所

総務一般、戸籍住民一般、税務一般、土木一般、農林一般、商工観光一般など

【支所長】山内善博【支所長補佐】梅原千里【係長・主任】塩田 誠、橋本賢二【主査・主事】軽尾圭造、伴田裕章、森田 亮、今川奈未、桐村杏菜

和知支所

総務一般、戸籍住民一般、税務一般、土木一般、農林一般、商工観光一般など

【支所長】榎川 諭【支所長補佐】永武幸子【係長・主任】四方晴美、村田弘之【主査・主事】山内秀文、出野文隆、山西博美、村山奈央、藤田健吾

教育委員会

学校教育施設、教職員人事、幼稚園、放課後児童健全育成、学校教育、学校保健、認定こども園建設、社会教育、人権教育、社会体育、文化財、文化芸術、図書室など

【教育次長】西村喜代美【学校教育課長】(西村喜代美)【社会教育課

長】山根美智代【課長補佐】上林太志、徳島康善、木下浩昭【係長・主任】(上林太志)、(木下浩昭)、山内圭司、四方妃佐子、小原直也【主査・主事】山本美子、細野江梨子、井口理恵【係長・主任】原澤美和、山下泰、久保元真一、川野雅夫

▼丹波分室
【主査・主事】松谷洋二

▼瑞穂分室
【主査・主事】(川野雅夫)

須知幼稚園

幼児教育など

【園長】浦井美紀【園長補佐】湊 玲奈【係長・主任】小林和子、堀 敬之【主査・主事】新庄美和子、池田直未【養護教諭】越浦宏美

中学校・学校給食センター

▼蒲生野中学校

【用務】和田 隆

▼丹波給食センター

【課長補佐】(上林太志)

▼瑞穂給食センター

【課長補佐】(上林太志)【主査・主事】

小林富美子

▼和知給食センター

【課長補佐】(上林太志)

退職者

＊3月31日付け、カッコ内は前職

前田武昌(国保京丹波町病院院長)

川島勇人(教育委員会事務局教育次長兼学校教育課長)

石崎宣彦(企画政策課主幹)

上西睦美(保健福祉課丹波地域保健福祉室長)

谷口いづみ(保健福祉課和知地域保健福祉室長)

片山利枝(国保京丹波町病院主査)

中村幸子(和知診療所看護師兼介護療養型老人保健施設看護師)

中澤紘士(税務課主事)

片山義章(土木建築課技師)



寺尾町長から辞令交付を受ける職員

五輪への道

スポーツで世界の人と文化がつながる京丹波

TOKYO2020



代表合宿の誘致は、町内のトレーニング施設間の受け入れ態勢の連携を強化し、海外の代表チームの受け入れにつなげるねらい。また、町内のホッケー部員がオリンピックと交流し、競技力や意欲を高めることを目的にしています。

合宿には、3月末からニュージールランドで開かれる国際大会前の最終調整として20人が参加。21日から6日間、グリーンランドみずほや京都トレーニングセンターで練習を積みました。合宿2日目の22日は参加選手と須知高校男子ホッケー部が対戦。第48回全国高等学校選抜ホッケー大会選抜大会を控え、日



▲ドリブルとシュートを練習する中学女子ホッケー部員



▲キーパーの基本的構えやキックを教わる



▲笑顔がまぶしい「さくらジャパン」(左から4番目がー谷麻実選手)



さくらジャパンと対戦した須知高校男子ホッケー部

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン認定を受け、ホッケー合宿の聖地を目指す本町で3月下旬、ホッケー女子日本代表「さくらジャパン」の強化合宿が行われました。

本代表チームと対戦したホッケー部員は、「選手一人ひとりの能力の高さ、チームプレーのすごさを実感した。自分たちの改善点も見つかった」と試合を振り返りました。

また、26日には町内の小中学生、高校生対象のホッケー教室を開催。選手らが参加児童らの年代に合わせて基礎的な練習内容を組みました。中村真理チームリーダーは、「ホッケーの楽しさを存分に味わってほしい。この中から未来のさくらジャパン、さむらいジャパンが生まれることを願っている」とエールを送りました。

児童らはグループに分かれ、選手の指導でドリブル、シュート、ゲームを行い、アドバイスを受けました。蒲生野中学校の徳岡莉菜さんは、「教わったことを生かしたい」と感謝。代表チームの一人、本町出身の「谷麻実選手(ソニー)」は「子どもが好きなのでとても楽しかった」と教室を振り返り、自身の目標について、「代表選手に選ばれたことは自信につながった。今は目の前のことに一生懸命取り組み、目指せる限り頑張りたい」と抱負を語りました。

京丹波町体育協会の中野昭会長に 京都府スポーツ賞「特別栄誉賞」

平成28年京都府スポーツ賞において、京丹波町体育協会の中野昭^{なかの}会長へ特別栄誉賞が贈られました。府スポーツ賞表彰の最高賞で、本町では初めての受賞。平成4年から丹波町体育協会理事、同副会長及び会長として、また平成17年からは京丹波町体育協会の会長として、スポーツの普及と振興に尽くされた功績が称えられました。

スポーツを「観る」「支える」こ



周囲の人の支えに感謝し、受賞を喜ぶ中野会長

とをモットーに、町技ホッケーをはじめ各種生涯スポーツの普及や町内の公共施設を活用した各種大会の振興などを支えてきました。「若い選手の活躍や成長が私自身のエネルギーになった」と振り返ります。また、「町民の皆さまの支えや家族の理解が何よりの力となり、今日まで務めを継続することができた。これからも元気が続く限り、まちに寄与していきたい」と意欲を新たにしています。

町民生児童委員協議会の田中強(前)会長に 全国民生児童委員連合会「永年勤続退任民生委員・児童委員表彰」

平成28年12月の京丹波町民生児童委員協議会一斉改選により、5期15年間務めた田中強^{たなかつよし}さん(鎌谷中)が退任。全国民生児童委員連合会の永年勤続退任民生委員・児童委員表彰が贈られました。

田中さんは平成13年に民生児童委員となり、担当地域の見守り活動や災害時の要支援者訪問などに尽力。5期目は会長として、委員活動の相談にも乗り、行政や社会福祉協議会と連携し、地域福祉の充実に努



活動の経験を生かしたいと田中(前)会長

京丹波町のまちづくりに 京都府知事から感謝状

寺尾豊爾^{てらおとよじ}京丹波町長が3月1日、永年勤続町村長として、京都府知事の感謝状を受領しました。地方自治の振興と府政の推進への貢献が認められたものです。

寺尾町長は「過疎地域への医師の確保や林業施策の推進、「京丹波

味夢の里」の設置など、府政と共に歩んできたことを実感している」とし、「まちづくりの推進力は町民の皆さまの支援であり、これからも「住んで良かった」と思われるよう、人材育成や災害対策、バイオマス産業都市構想を軸に着実に施策を実施していきたい」と気を引き締めています。

平成28年京丹波町スポーツ賞・文化賞

平成28年京丹波町スポーツ賞・文化賞表彰式が3月11日、中央公民館で行われ、体育振興や文化振興の功労者、優秀な成績を収めた個人・団体に贈られました。受賞された皆さまの今後の活躍に期待が集まります。(敬称略・カッコ内は所属)

スポーツ賞の受賞者

【特別栄誉賞】

▼中野 昭(京丹波町体育協会)
長年、町体育協会長などを務め、スポーツの普及・振興に尽力。

▼梅原佐公(綾部高等学校)

第71回国民体育大会カヌー競技・少年女子カヌースプリントカヤックフォア500m優勝、カヤックフォア200m第2位

▼野村 優(農芸高等学校)

第4回世界クラシックパワリフティング選手権大会女子63kg級第5位、デッドリフト第3位、サブジュニア女子トータル日本記録更新

【功労賞】

長年、地域の体育振興に尽力。
▼豊嶋義夫(グラウンド・ゴルフ協会)

▼坂本盛夫(京都府ゲートボール連合京丹波支部)

【優秀賞】

全国、近畿、府内の競技会などで優秀な成績を収めた個人・団体

▼中村夏子(グラウンド・ゴルフ)

▼山内健太郎(車いすミニ駅伝)▼船越百笑子(柔道)▼梅原一能(カヌー)▼面田響生(同)▼今出 仁(空手道)▼徳岡丈翔(同)▼瑞穂中学校ホッケー女子部▼瑞穂中学校ホッケー男子部▼蒲生野中学校女子ホッケー部▼須知高等学校男子ホッケー部

文化賞の受賞者

【文化賞】

▼池田琴美(和知中・瑞穂中美術講師)
第20回全国きものデザインコンクール金賞。指導者としても優れた指導で生徒を導いた。

▼妹尾 歩(園部高等学校)「化学グランプリ2016」金賞

▼石田天希(須知高等学校)
第67回日本学校農業クラブ連盟全国大会の農業鑑定競技優秀賞

【文化功労賞】

長年、町の文化向上・発展に貢献

▼貞守 昭(瑞穂木彫会)▼松村 穂雄(みずほ句歌会)▼小林勝久(和知人形浄瑠璃会)▼山本 正(和知文七踊り保存会)▼京都・琴麗会せせらぎの会

【輝き賞】

近畿、府内の展覧会などで優秀な成績を収めた個人・団体

▼榎木菜月(デザイン・イラスト)▼長谷川天星(デザイン・絵手紙)▼村上あかり(小論文)▼三木信太郎(作文)▼須知高等学校農業クラブ

雇用促進と人材定着をめざして

須高生が町内企業でインターンシップ

須知高校生が町内の企業で就業体験する「高校生インターンシップ」が3月15日・16日の2日間行われ、就職志望の2年生11人が参加。町内6つの企業の工場や事務所で実際の業務を体験しました。

この事業は、町内の製造業企業などでつくる「京丹波町産業ネットワーク」が、次世代の地域定着や町内企業への雇用促進などを目的に初めて実施した事業で、同ネットワークに加入する24企業の内、太陽工業(株)瑞穂工場、協和電機工業(株)、アズビル京都(株)、(有)みずほファ-

ム、丹波ワイン(株)、瑞穂農林(株)が生徒を受け入れました。

生徒らは、緊張した面持ちで工場での加工や出荷作業、農園での栽培作業などに懸命に取り組み、実際の就労体験を通じて自分自身の適性や町内企業への就職について考えていました。



ものづくりの現場で加工作業を体験する生徒(右)(太陽工業(株)瑞穂工場・八田)

「暮らしの見守り役」「身近な相談相手」 そして「専門機関へのつなぎ役」として

民生委員制度のはじまり

平成29年は民生委員制度創設百周年。民生委員制度は、大正6年（1917年）に岡山県で創設された「済世顧問制度」に始まりました。翌7年に大阪府で方面委員制度が発足し、昭和3年には方面委員制度が全国に普及。京都府では大正9年に「公同委員制度」が創設されました。昭和21年の民生委員令の公布により方面委員は民生委員と改称されました。

いずれの制度も生活に困窮する人々を救うために始まり、さまざまな理由で生活上の課題を抱える人々を支えてきました。現代では、社会情勢などの変化に伴い、福祉サービスの情報提供や利用支援が活動の柱となり、民生児童委員は地域福祉推進の担い手と位置づけられ、その役割や期待は大きくなっています。



▲緊急時などの連絡先を記した「かわら版」配付



▲小学生の通学の安全指導と見守り活動

地域福祉活動

【住民の居場所づくりや仲間づくり】

高齢者サロン活動や「一人暮らし高齢者の集い」などへの勧誘やお手伝いをしています。

【地域の行事などへの参加】

地域行事や学校行事などへ積極的に参加して住民との親ばくを深めています。

仲間との情報交換や研修

【月1回の定例会】

地域の民生児童委員による月例会議で、委員同士の情報交換や研修会を行っています。

▼ケアマネとの情報交換会議



住民の相談・支援活動

【見守り役として】

高齢者や障害者などの安否確認や見守りのための訪問活動、子どもの登下校の安全の見守り活動を行っています。また、災害の恐れがあるときは、避難行動要支援者台帳に基づき、対象者への声かけや見守りを行います。

【行政などへのつなぎ役として】

地域住民が抱える悩みや心配ごとなどの相談にのり、必要に応じて福祉サービスなどの情報を提供し、関係機関へつないでいます。

関係機関などとの連携

【実態調査への協力】

行政や社協などの依頼を受け、担当地域内の高齢者世帯などの状況調査などに協力しています。

節目のひと言

今こそ、

地域の見守り活動を

町民生児童委員協議会

会長（瑞穂支部長）

阪内 敏明



民生委員制度の創設から今日まで、時代とともに社会の構造や課題も大きく変動してきました。現在では、少子高齢化の進行やそれに伴う家庭形態の変化、価値観などの多様化を背景に、高齢者や児童への虐待やひきこもり、子どもの貧困など、地域課題は一層複雑なものとなっており、地域や家庭での支え合いが難しい時代となっています。

こうした時にこそ、民生児童委員・主任児童委員が住民の見守り活動を重視し、行政や関係機関のパイプ役としての活動が求められています。

手を携えて

町民生児童委員協議会

副会長（丹波支部長）

石田 美恵



“安心安全に生活できる地域社会づくり”のために、

私たち民生児童委員は、皆さまの最も身近な相談相手として信頼関係を築くことの大切さを感じています。

制度百周年の節目に改めて責務を自覚し、民生児童委員（主任児童委員含む）80人が手を携えて活動に励んでまいります。

目くばり・気くばり、
十心くばり

町民生児童委員協議会

副会長（和知支部長）

春田 貢



今年は、民生委員制度百周年を迎える中で、担当地

域の福祉に対する相談内容についても専門的な援助を必要とするケースが増加しています。周囲の

見守り体制の強化を含め、早期に気づける環境づくりが大切であり、気づいた時点で福祉などの関係機関・地域関係機関が連携を図ることが必要です。そのパイプ役として民生児童委員・主任児童委員が情報交換しながら活動することが求められています。

常に、目くばり、気くばりプラ

ス心くばりの精神を基本にしながら社会福祉の増進に努めていきます。

「命のカプセル」配付事業をご存知ですか？



※「命のカプセル」をご希望の方は地域の民生児童委員に相談してください。

1600人以上が備えています

救急車を呼んだときなど、あわててしまい、保険証などを探し回ることがあるかもしれません。

「命のカプセル」とは、緊急時に必要な医療情報などをカプセルに入れて決まった場所に保管し、救急救命作業を迅速に行うための備えです。一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯、健康に不安のある方などに活用いただけます。本年2月末日現在で、1437世帯、1682の方が「命のカプセル」を備えています。

「命のカプセル」に入れるもの

1. 救急医療情報

住所・氏名・生年月日・保険証番号・治療中の医療機関や主治医名・緊急連絡先などを用紙に記入

2. 病院で処方された薬の説明書



波りのイ 丹もイ 京ぬく



工程をたどり、まちの人の手で仕上げるまでを描いています。イス

「京丹波ぬくもりのイス」の生い立ち伝える 絵本が完成、イスとともにプレゼント

本町では、地元産ヒノキ材で手作りしたイスを通して、子どもたちが木のぬくもりや自然への愛着を感じながら育つことを願い、平成26年度から町内の新生児へ「京丹波ぬくもりのイス」を贈っています。

このたび、ぬくもりのイスの製作過程を紹介する絵本が完成。28年度からイスとともに手渡ししています。絵本はA5サイズ、全10ページ。ヒノキの成長から搬出や製材

に込められたメッセージがより伝わるようにと、京丹波ぬくもりのイス製作実行委員会と趣旨に賛同した京都大学の清水夏樹准教授が中心となり、編集しました。

絵本読み聞かせサークル「黄色いパケツ」の高橋八重子さん(質美)が贈呈式で読み聞かせ



「お誕生おめでとう」の気持ちを含めて

イスの仕上げ作業は3月4日、山村開発センターみずほで行い、ボランティア13人が分担して約80脚を組み立て、名を入れました。参加者は「ヒノキは柔らかいので、傷や汚れを付けないよう注意した」「赤ちゃんが元気に育っているかな、ご家族はイスを喜ばれるかなと想像し、お祝いの気持ちを込めて名を書き入れた」と二台二台を大切に仕上げました。



細心の注意を払い作業に集中するボランティア



平成28年4月に開幕した森の京都博覧会を締めくくり、これからの「森の京都」エリアの発展に向けたテイクオフイベント「森の京都 春の祭典」が3月20日、京都府立丹波自然運動公園、須知高等学校ウィードの森、「京丹波 味夢の里」で開かれました。



連載 「森の京都」京丹波スタイル

森の京都

連載 「森の京都」京丹波スタイル

サバ寿司が伝えるもの

町観光協会主催の第6回京丹波町観光シンポジウムは3月2日、郷土食の魅力の再発見をテーマに開催。おなじみの「サバ寿司」にスポットを当て、調理・試食を楽しみ、改めて伝統食について考えました。

調理・試食会には、調理方法を伝える人、伝統食に関心のある人など30人が参加。保健福祉センターの調理室で棒寿司、なれ寿司、こけら寿司、焼きサバ寿司などを作りました。

「母の味を次世代に伝えたい」と参加した谷垣良子さん(水原)は、こけら寿司を紹介。「母がお節句などに作ってくれたこけら寿司の美味しかったことを強烈に覚えている。魚の臭みがなく、子どもにも食べやすい味」とお勧め。季節によって菜の花、ゆずを合わせます。

食生活、生活様式が変化してもなお、

家庭や地域で引き継がれる「わがまちの味」

なれ寿司(西河内・藤田和子さん作)



焼きサバ寿司作り

和知小5年生森の学び推進事業 地元木材で木琴作りに挑戦

和知小学校5年生が、地元産の木材を使った木琴作りに挑戦し、1月から3月上旬にかけて完成させました。材質による音色の違いを知るため、ヒノキ、ケヤキ、クリ、サクラ、マツ、スギの木材が用意され、樹種を組み合わせて8音作りしました。重く硬い木ほど高音が出るため、児童らは選んだ木材に合わせて、長さや厚さで音を調節。津田伶衣さんは「木によって切るときの手応えがちがった」、山内幸宗くんは「同じ種類の木でも使う部位によって違った」と実感していました。



世界に一台の木琴から軽やかな音色が響いた

安来節踊りと銭太鼓教室

第1回練習交流会

安来節師範の一字川敏（本名・湊敏）さんが3月12日、道の駅「和伝統芸能常設館」で「安来節 踊りと銭太鼓教室」の練習交流会を開催。町内、南丹市、綾部市などの教室の生徒が一堂に会し、踊りや演奏の魅力を伝えました。

軽快なリズムとひょうきんな所作に観客は「表情がなんともいいな」と笑顔。和知教室で習う藤井五郎さん（篠原）は「簡単そうです所作が奥深く、運動を兼ねて楽しく続けている」とのこと。一字川さんは「見ていただく方に元気を届けたい。これからも交流会を続け、安来節を広めていきたい」と盛況を喜びました。



一字川師範の名人芸

成長の軌跡まぶしく

町立学校などで卒業式

町立中学校の卒業証書授与式が3月13日、各校で行われ、計132人（蒲生野73人、瑞穂37人、和知22人）が卒業。仲間や恩師、家族への感謝を胸に、母校に別れを告げました。

和知中学校では、卒業生代表の森川拓海さん・津田芽衣さんが「仲間と支え合うことで共に成長できた、とても充実した3年間だった。これから新しい環境で挑戦し、成長できるよう努力したい」と答辞を述べました。

23日には、町立小学校の卒業証書授与式が各校で行われ、計10



式後、母校を去る卒業生へ在校生が駆け寄り、花束を渡した（和知中）



新しい制服に身を包み、体育館に歌声を響かせた卒業生（下山小）

6人（竹野6人、丹波ひかり39人、下山10人、みずほ34人、和知17人）が、学びやを巣立ちました。

翌24日は町立幼稚園保育所では、須知幼稚園で18人、3つの保育所で計64人が卒園しました。

森林資源が循環する地域社会への歩みを促進

京丹波森林組合の合併10周年

京丹波森林組合の合併10周年記念式典が3月18日、和知ふれあいセンターで行われ、各区の総代や関係機関、近隣の森林組合代表理事などが節目を祝いました。

組合は平成18年12月、資本の拡充と経営基盤、業務体制の強化を目的に旧町3組合を合併。現在、森林経営面積約2万5千ヘクタールで、施業集約化を図り、搬出間伐を進めるなか、新たな作業道の開設や高性能林業機械の導入など基盤設備を図り、担い手育成などに積極的に取り組みました。平成27年度森林整備推進モデル表彰で京都府知事賞を受賞。平成28年度に今後5カ年の運動方針を定めた中期計画を策定し、森林資源が循環する林業の確立をめざしています。

式典では、功労者として組合経営をけん引した谷峰男初代組合長（元和知町森林組合長・坂原）、組合合併に尽力した横山均元丹波町森林組合長（口八田）、上田孝夫元瑞穂町森林組合長（和田）へ感謝状を贈呈。また、合併後の組合



式辞を述べる梅原代表理事組合長

式典後に職員がチェンソーアートを披露

経営や森林整備の推進などに寄与した5人、9団体、長年職務に精励する森林技術員5人、職員6人を表彰しました。

梅原久弘代表理事組合長は、「林業情勢は厳しいが、職員一丸となり、行政とも連携し、中期計画に基づく森林整備や木材利用の推進に取り組みたい」と展望しました。



瑞穂小6年生が卒業記念にモクレンとハナミズキを計7本植えた

皆で育てる「記念植樹の森」

森林組合では10周年記念事業として、道の駅「瑞穂の里 さらびき」北東側に「記念植樹の森」を造成。町民が森林に親しみ、関心を持つ機会にと、桧山財産区の所有林を借り受け、整備しました。

その第一歩として、記念式典を控えた3月16日、瑞穂小学校6年生と瑞穂中学生が植樹を行いました。樋口義昭専務理事は児童へ、「皆で植えた木の成長を見守り、人生の折々に思い出してほしい」と呼びかけました。

和知北部地域で

心弾む交流、合同サロン

和知地域の北部振興会が3月1日、合同の高齢者サロンを西河内集落センターで開催。3集落から40人が参加し、健康体操や玉入れゲーム、茶話会などを楽しみました。

町内でも高齢化が進む当地域では各サロンの参加者が少人数のため、より住民同士の交流を深めようと合同開催を呼びかけました。藤田正之振興会長は、「開催場所は各区を巡回するなど工夫したい」と手応えを感じています。



体操で心と身体をほぐす

栽培技術や農業情勢を報告

黒大豆・小豆生産者大会

平成28年度黒大豆・小豆生産者大会が3月17日、道の駅「和」伝統芸能常設館で開かれ、町内の生産者など80人が参加。優れた生産者の表彰を行い、29年の経営対策や栽培振興に向けて、近畿農政局京都支局の藤田栄二支局長や京都府南丹農業改良普及センター職員などが講演しました。

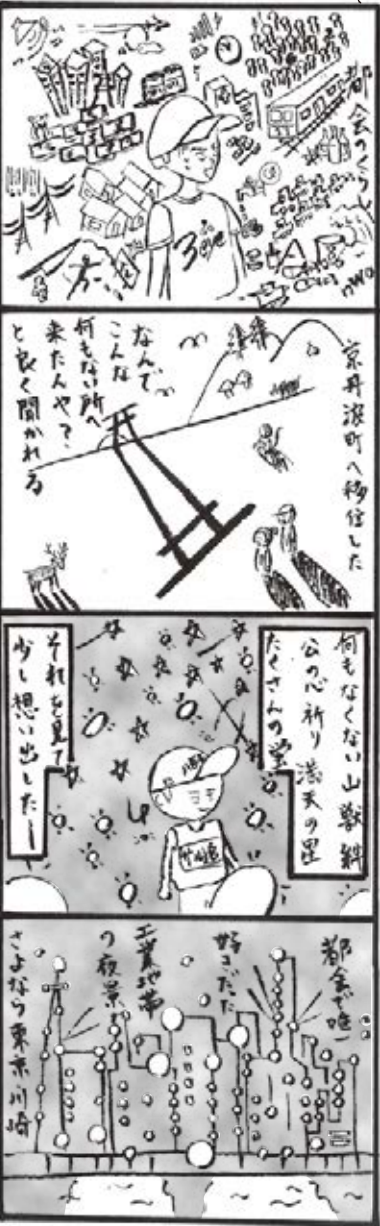
第28回瑞穂大納言品評会で最優秀賞を受賞した上西利秋さん（井脇）は、「栽培に適した農地選びには気を付けている。まだ農業を始めて5年目なので、皆さまの指導のおかげ」と感謝しました。

黒大豆求評会は、最優秀賞に野間正幸さん（升谷）、黒大豆優良生産者に横山義雄さん（口八田）が選ばれました。



藤田支局長が新制度を説明し、会場から質問の手が挙がった

マンガで描く、ある地域おこし協力隊の日々
京丹波町へ
作・渡辺 晋平



お茶の間

〈新コーナー〉「お茶が入ったよの一声で家族が集まり心通わせた」お茶の間のようなページをめざしています。

四角の中に入る
ひらがな1文字
は何だム？

チャレンジ! 頭の体操クイズ

□んしん□んぜん

【例題】□き□きけんこうじゅつ
→いきいきけんこうじゅつ



図書室がおすすめする
こんなときの、この一冊

『林業少年』

堀米 薫・作／新日本出版社

緑が美しい季節になってきました。

この本の主人公、小学5年生の喜樹の家は、祖父が林業を務める兼業農家です。日本の木材は、外国から安い木材が輸入され、売れにくくなっていますが、人間の一生よりも長い木を育て、山を守る職人さんたちの姿がいきいきと描かれています。やがて、喜樹の姉・楓は進路を農学部決めて、林業に進むことを決意します。跡取りとして期待される主人公の眼を通して、これからの林業について考えさせられる一冊です。

(中央公民館図書室：湯浅真弓さん)

図書室ご案内 中央公民館(蒲生)、桧山公民館(大朴)、梅田公民館(鎌谷下)、三ノ宮公民館、質美振興センター、ふれあいセンター(本庄)
貸出期間 2週間 1回の貸出冊数 1人5冊

〈掲載例〉



京丹波 味夢ちゃん
(蒲生/129.1.1生)
「元気にすくすく育ってね」
京丹波 和知・瑞穂

「こんにちは赤ちゃん」コーナーに お子さまの笑顔をお寄せください

〈対象者〉町内在住の生後1歳未満のお子さま
〈申込方法〉お子さまの顔写真に氏名などを記入する申込書を添えて、役場または支所まで、持参か郵送で届けてください。メールの場合、写真を添付し、件名を「こんにちは赤ちゃん」として、申込書に記載する必要事項をメール本文に記載して下記アドレスへ送付してください。

【問】京丹波町企画政策課 広報広聴係
電話 82-3801/FAX 82-2500
Eメール kikaku30@town.kyotamba.lg.jp
※申込書は役場・支所窓口にあるほか、町ホームページからダウンロードできます。

わたしたちの町

人口 14,770(-90)
男 7,002(-40)
女 7,768(-50)
世帯数 6,338(-17)
4月1日現在/()は前月比

義援金などの受付状況

東日本大震災義援金 9,768,363円
熊本地震義援金 1,824,587円
福島県双葉町復興支援募金 7,075,533円
(平成29年3月31日現在)

ふるさと応援寄付金のお礼

株式会社京都環境保全公社 100万円
片山 山治 10万円
*敬称略
*掲載内容は寄付者の了解を得ています

後編 企画政策課は蚊がよく出ます。4月号の編集集中にさっそく4箇所も刺されました。周りにもっとおいしそうな人がいるのに…
かゆい
(片山晴子)



いきいき健康術 第116回

町立病院・診療所の医師や専門職員が健康情報をお届けします。

『睡眠薬を飲むと認知症になる?』

京丹波町病院 内科医師 垣田 秀治 院長



睡眠薬と認知症に因果関係はありません

「睡眠薬を飲むと認知症になりませんか?」という質問をよく受けますが、答えは「ノー」です。睡眠薬が朝まで残ってボーっとすることがあるかもしれませんが、これは睡眠薬の「持ち越し効果」といわれています。また、アルコールと併用したことによって「一時的な記憶障害」が起きたり、飲酒後に睡眠薬を服用し、寝るまでの記憶が消えてしまう「前向性健忘」という症状がでることはありますが、これらは認知症とは全然意味が違います。今までいろいろと研究や調査もされていますが、現在のところ睡眠薬と認知症について、はっきりした因果関係はないとされています。

眠れないときはアルコールよりも…

また、眠れないからといってアルコールを飲んでも、その睡眠の質は悪く、途中で目が覚めたり、アルコールが次第に効かなくなって量がだんだんと増えてしまい、アルコール依存症になってしまうということもあります。

眠れないからとアルコールに頼るのではなく、必要に応じて適正に睡眠薬を服用することは心配することではないので、かかりつけの医師に相談されることをお勧めします。

生活習慣のひと工夫で良い眠りを

しかし、できれば薬は使わずに良眠を得るのが一番。寝室の環境を整える、嗜好品に注意を払い、寝る前にカフェイン入り飲料を飲まない、無理に眠ろうとしないなど、生活習慣を見直すことが一番大切なのは言うまでもありません。

院長就任のあいさつ

この4月から国保京丹波町病院の院長職を拝命いたしました。「私たちの町の私たちの病院」を目指して、今まで以上に地域の皆さんの最寄りの医療機関になれるように全力を尽くしていきたいと思っています。

また、糖尿病教室や健康教室など、病院を出る医者として皆さんの地域にも積極的に出向いていくつもりです。これからもよろしくお願いいたします。

京丹波町病院 電話 0771-86-0220

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。

ご理解とご協力をお願いします



人と人 地域と世界をつなぐみんなの手

“地域の課題解決” “暮らしを楽しく” “さまざまな目的で地域運営や活性化に取り組む皆さまの活動が繋がって未来の京丹波をつくります”

恵みの食材、ふるさと仕立て

準グランプリに入賞。地元産黒大豆のみを使ったみそは、口コミで評判に。加工販売が農産物の魅力発信につながるを考え、むらの活力向上事業を活用して事務所一階を加工施設に改造し、平成28年10月から稼働しています。



▲つくね豆をアレンジした「くろっ豆美人」(手前)と洋菓子「パニラキッフェルン」(奥)

農業生産法人「京丹波ほたるの里」の農産物加工施設「キッチンほたる」で、地元農産物を使った独自商品が生まれています。農業生産法人「京丹波ほたるの里」(谷山建夫代表)は平成19年、安井と塩田谷の有志の農家が設立。「美しいふるさとをみんなの力で守っていただく」を合言葉に、米や黒大豆、小豆などの生産・販売や農産加工、収穫体験などの交流事業に取り組んでいます。

法人女性部「夢ほたる」(谷山千榮子部長)が交流イベントで振る舞う郷土料理は、参加者の胃袋をつかみ、地元農家と心を通わせるひと時を作り出しています。食の祭典2014ではイノシシ肉ソーセージの「いのちゃんドッグ」が

▼ロケ弁試作に取り組む女性部「夢ほたる」メンバー。地元食材を生かした家庭的な献立に工夫。



黒大豆菓子の「くろっ豆美人」

は、思い出の味「つくね豆」から考案されたもの。「子どものころ、正月にみかん、つるし柿、つくね豆を半紙に包んでご近所からいただいた。当時、一番うれしかったのはみかん、次いでつるし柿。つくね豆は白豆、黒豆、茶豆などをこねて丸めたもので、子どもには人気がなかった。それが今となつては懐かしい」と谷山正さん。そのつくね豆を法人女性部が黒大豆や米粉で再現しました。かみしめるほど豆の香ばしい風味が広がります。

9月には法人設立から10年を迎えます。地元では映画ロケ誘致事業の拠点整備が進んでおり、ロケ弁開発にも参画。谷山代表は、「町民の財産を地域で盛り上げていきたい。農業情勢は厳しいが、きれいな空気と水で良質の作物が収穫でき、お客さまに喜んでいただけることは農業者みよりに尽きる」と。京丹波町周遊の目的地の一つとして、『ほたるの里』を目指してもらえるようにしたい」と意気込みます。